

●修了生の言葉

「学びの喜び」 畔田 実幸

漠然とガーデニングに興味を持った頃、たまたまペラリとした“広報富山”の一ページで講座の募集と目が合いました。

ついていけるのだろうか、不安から始まった講座は花好きの優しい仲間にもまれ、すぐに学びの喜びの場へと変わりました。

渡邊先生の解り易くくたいて説明して下さった土の中の共生の世界、宿根草のそれぞれの生き方、生態に基づくデザイン手法、目に見えない動き・氣勢のこと、、、楽しくて楽しくて夢中になって通い、あっという間に3年が経とうとしています。

いま改めて感謝していることは科学を通して植物と接することで、日常がより感動深いものとなったことです。

さて、我が家の庭に学びを生かすにはまだまだ復習と経験と時間が必要となりそうですが、植物と自分、お互いが心地よく過ごせる庭づくりをモットーにこれからも楽しんでいきたいと思えます。

「私の庭」(花壇) 佐伯 栄子

ずっと以前から自然風な花壇をつくりたいと考えていました。しかし、花を植えても雑草に負け悲惨な状態でした。

そんな時、職藝学院の事を知り、そこでたくさんの事を学びました。①土作りが一番大切である。②各種の花には、最適な条件がある。(日照・温度・風通し・株間など)③家の環境により、花壇の条件は違って来る。④今まで全く知らなかった外国の花に出会い、植栽し、観察ができた。(草姿などの違いに不思議さを感じました。)

また、渡邊先生の一言、「英国の花好きな人は、いつも庭を作り替えている」が、とても心に残りました。大抵植えっぱなしだったからです。他にも、一緒に学んだ仲間は意欲的で、彼らの花壇には個性があり、刺激を受けました。

私も自分のペースで、風をそよぐ自然風の花壇を作っていきたいと考えています。

「花と私の出逢い」 長谷川 和子

「四季を通じて自然を楽しむ庭」との思いから今日まで来ました。義母の庭には、なにかしら違和感もあって、私らしい庭ができたらいい！！と思ったことが始まりだったように思いました。

もっともっといろいろな事が知りたい一心で職藝学院の講座を申し込み、季節の風を感じ、特に立山連邦を見ながらの道中に感動しつつ通い続けられた3年間でした。

講義中に何度も「あっ、そうなんだあー」「ふんふん」と頷いている自分にびっくりしました。いかに今まで私は花だけしか見てなくて、植物全体の事、環境の事までは無知だったと改めて認識した日々でした。講義で教えて頂いたことを日々ゆっくりゆっくりと我が家の庭で出来たらいいなあーと思っています。

最後にすばらしい渡邊先生や人々との出逢いに感謝致します。